

令和 8 年 2 月 20 日

大阪市総合教育センター  
教育振興担当 実践研究グループ  
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校舎コード (代表者校舎の市費コード)
531062
選定番号
131

代表者	校舎名:	野田小学校
	校舎長名:	川辺 智久
	電話:	6461-0520
	事務職員名:	児嶋 桜子
申請者	校舎名:	大阪市立野田小学校
	職名・名前:	主務教諭 横山 健治郎
	電話:	6461-0520

### 令和7年度 「がんばる先生支援」 報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究 (3年目)												
2	研究テーマ	ビジョントレーニングを活用した「見る力」の育成															
3	研究目的	<p>○さまざまな情報が益々あふれるこれからの社会では資料を正確に読み解いていく総合的な読解力はますます求められている。しかし、子どもの中にはものを見えてはいても、それが何なのか理解できない、また、それを表現することができない子どもが多い。さらに、特別支援学級在籍の子どもや通級学級の中には「見る力」が十分に育っておらず、学習に困難さがみられる場合も多い。そこで本校では、2年前よりビジョントレーニングの研究に取り組んできた。2年前の研究発表では他校から70名以上、昨年度の研究発表には100名近く参加者を得て、様々な実践交流・情報交換の場を提供することができた。本研究に対する関心の高さを示していることから、本校だけでなく、大阪市の子どもたちにとって意義のある研究になると考える。そこで、本年度も引き続き研究を進め、その成果について全市に発信を広げていきたい。</p> <p>今年度の本研究の目的は主に次の二つである。</p> <p>①ビジョントレーニングの効果的な活用方法と新しい手法の開発 (特別支援学級や通級教室での活用をもとに通常学級での活用方法を見出す)</p> <p>②「見る力」を活用したビジョントレーニング教材の開発とその意義の発信</p>															
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>【個別の支援・指導計画の策定】 通級児童の担当担任および実態把握を目的とし、授業観察や学級担任との共通理解を深化。担任および児童自身へのアンケートを通じて、個々のニーズに即した「個別の支援計画」および「個別の指導計画」を構築した。(4月・5月)</p> <p>【WAVES検査と多角的な指導の展開】 児童の発達状況を数値化・分析するため、WAVESを用いた検査を実施。その結果に基づき、ビジョントレーニングに粗大運動・微細運動、およびソーシャルスキルトレーニング (SST) を組み合わせた多角的な指導を開始した。(6月・7月・11月)</p> <p>【他校研修および教材開発の推進】 他校にてビジョントレーニングの講師を務めるなど、研究成果の普及活動を実施。夏季休業中には最新の知見を取り入れた指導計画の練り直しを行い、巧緻性の向上を見据えたオリジナル教材の開発に注力した。(8月)</p> <p>【生成AIを活用した指導ソフトの開発】 ビジョントレーニングの充実を図るため、パソコンでの活用を想定したソフト開発の検討を開始。生成AIを用いた試作を通じてプロトタイプを構築し、ICTを活用した新たな指導形態の可能性を模索した。(8月・9月・10月)</p> <p>【指導効果の検証と成果の分析】 WAVESの事後検査および担任・児童へのアンケートにより、通級指導が児童の変容に与える影響を客観的に分析。得られた分析結果をもとに活動の意義を検証し、外部発表会に向けた実践報告資料の作成を組織的に進めた。(11月・12月)</p> <p>【研究発表会および専門家による招聘研修】 野田小学校にて研究発表会を完遂。専門家の北出先生から自作ソフトの活用に関する直接指導を仰ぐとともに、延べ31名が参加する研修会を開催し、指導技術の向上と研究内容の還元を図った。(12月・1月)</p>															
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 1 月 21 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 30 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大阪市立野田小学校</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3">他校での研修会の参加は87名。</td> </tr> </table>				日程	令和 8 年 1 月 21 日	参加者数	約 30 名	場所	大阪市立野田小学校			備考	他校での研修会の参加は87名。		
日程	令和 8 年 1 月 21 日	参加者数	約 30 名														
場所	大阪市立野田小学校																
備考	他校での研修会の参加は87名。																

6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力</u>」の育成および「<u>教員の資質や指導力</u>」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>ビジョントレーニングを日常的に活用することによって①ものを見る力②脳で理解する力③口や動作でアウトプットする力によって構成される「見る力」を向上させ、視覚的な能力を強化する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査の過去問題における「活用」に関わる問題（特にいくつかの資料から総合的に考える問題など）を6月と12月に行い、正答率が6ポイント以上向上させる。</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>特に複数の資料を活用する場面の多い社会科の経年調査では、資料活用を伴う思考力等の正答率が向上した。3学年は70.1から76.2、4学年は54.0から63.7、6学年は46.3から75.3へ大幅に上昇。5学年は67.2から66.4と微減したが、特に6学年では約30ポイント増を記録。資料活用が着実に証明される結果となった。これらには複合的な要因が考えられるがビジョントレーニングもその一因であったと考えられる。</p>
		<p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>ビジョントレーニングを日常的に続けることによって迅速かつ正確に情報を処理する力を高め、視覚的な能力を強化する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>①ビジョントレーニングにおける視覚機能の向上を専門機器（トレーニングギアREACTION）で測定し、反応速度を2秒以上向上させる。</p> <p>②ビジョン・アセスメントツールの「WAVES」を2回活用し、平均値を向上させる。</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>①で検証予定であったREACTIONは機器故障により正常に測定することができなかったが、同様の機能をもつ（光った場所に対して素早く反応する）アプリの開発により反応速度の向上が見られた。特に広角視野を活用しての効果が高く、最初の測定値から半分以上に時間が短縮する児童がいるなど、想定より大きく上回った結果となった。</p> <p>②「WAVES」の活用を5回程度行い、全ての児童において平均値が大幅に向上した。アセスメントツールの活用自体がアウトプットする形でのトレーニングとしての側面ももっており、これらツールを積極的に活用していくことが支援と評価の一体的に行っていく可能性につながると感じた。</p>
		<p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>ビジョントレーニングによって子どもにどのような変容があるのかを見取る教員のアセスメントの力を向上させる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>教職員アンケートを行い、「子どもを見取る力が向上しましたか」の項目において、肯定的評価を80%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察]</p> <p>こまめに通級担当と担任とで当該児童の情報共有するとともに、担任が学級で当該児童のがんばりを全体に共有することで集団の中での自己肯定感が高まっていった。当該児童のいる担任に「子どもを見取る力が向上しましたか」の調査結果、肯定的評価は100%であった。ビジョントレーニングによる能力の向上を見取る方法についての共有については進んだと考えられる。</p>

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p>
		<p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p>

6	研究全体を通じた成果と課題	<p><b>【研究全体を通じた成果と課題】</b> 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p>
		<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>「ビジョントレーニングを通級指導に活用する可能性を探る」という研究テーマに対して、多くの方に興味をもってもらい、想定を大きく上回る人数で研究発表会を開催することができたことは何よりの成果である。また、本年度、全ての学年、全教科で「活用」分野で大阪市平均を上回ることができたのは、「見る力」をトレーニングすることで情報を活用する力が向上したこともその理由の一つであると考えることができる。「見る力」を三つに分けて教材選定をすることで、より効果的にビジョントレーニングをすることはできたが、それら全てを網羅的にテストで判定することは難しかった。より直接的な数値で「見る力」の向上を検証できる方法を考えたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>ビジョントレーニングを主として通級指導教室で実践し、その有用性・可能性を見いだせたことが大きな成果であった。ビジョントレーニングを通級指導の入り口として、教材研究を通して様々な学習活動を関連付けていくことは、相乗的な効果に結びつく場面が多くあった。例えば、識字障がいと思われる児童に、追従性眼球運動や跳躍性眼球運動のトレーニングを取り入れることによって、板書をノートに写す速度が向上したり、写し間違いが減ったりするなど、児童の学級での学習活動がスムーズになった事例があった。またビジョントレーニングを活用した通級指導の在り方について、多くの先生方に興味を持っていただき、研究発表には、他校から100名近く参加者を得て、様々な実践交流・情報交換の場を提供できたことは大きな成果の一つといえる。しかし、児童の成長した部分におけるビジョントレーニングの効果や質、練習量等の関係は、多数の要素が関連しており、ビジョントレーニング独自の効果・評価が難しかった。更なる教材の精選・事例の追加、評価方法の模索など検討・検証していく必要がある。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>WAVES検査による定量的評価とアンケートによる定性的分析を組み合わせ、児童の変容を客観的に検証できた点が大きな成果である。特にビジョントレーニングにSSTや運動を統合した多角的な指導は、担任・児童双方から肯定的な評価を得た。また、生成AIを活用して自作ソフトの開発に着手し、専門家の指導を仰ぎながら研究発表会（参加者31名）でその成果を共有できたことは、ICT活用の新たなモデルとなった。</p> <p>ビジョントレーニングに対する専門的な知識を深め、開発したソフトの操作性や指導案としての精度をさらに高める必要がある。また、通級指導での成果を通常の学級内での学習や生活へ、よりスムーズに汎化させるための担任との連携強化が今後の焦点である。</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>4月から開設する「自校通級学級」の指導について、試行的に実践を重ねてきた。選定番号114の「ボードゲーム」には、ビジョントレーニングの要素が含まれたゲームも数多くあり、双方とも「自校通級学級」の指導に光明が見いだせたことは、極めて大きな成果である。また、研究発表において他校から70名もの参加者があったことから、その反響は大きく、講師の北出先生は大阪市の多くの学校にビジョントレーニングの効果を広めることができたことを大変喜んでおられ、その意味での成果も大きい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本年度から開設した「自校通級学級」の指導プログラムについて、選定番号110の「ボードゲーム」と合わせ、試行錯誤しつつ実践を重ねてきた。年度当初は手探り状態のスタートであったが、ビジョントレーニングを取り入れた個別プログラムの一定のスタイルを確立できたことは大きな成果である。特にLDの子どもへの指導は効果が大きく感じられた。また、研究発表には他校から100名近くの参加者があり、本市における通級指導教室の有効なプログラムの1つとして、ビジョントレーニングを紹介できたのではないと思う。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>情報を正しく理解・表現する力の基盤となる「見る力」を育むビジョントレーニングは、全教科の学びに通ずる極めて重要な取り組みである。特別支援を要する児童の実態に即した実践の結果、写字速度の向上や誤字の減少といった具体的成果が得られ、児童の自信と学習意欲の向上に直結した。この成果は一部の支援に留まらず、通常学級を含めた授業改善に広がる可能性を秘めている。3年間の研究は本年度で一区切りとなるが、今後も理論と実践を往還させながら研究を深めたい。本校の実践が、大阪市全体の教育充実に寄与することを期待する。</p>